

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

万国百物語

初編

一

万国百物語  
瓜生政和編  
明治初年地理物

ル 2  
3248  
1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



冊 2  
3248  
1

瓜生政和編集

# 萬國百物語

石塚寧齋畫圖

東京

書肆

保永堂

藏板

## 叙

一日隣家の童子僕が机に傍らに控りて云ふ  
 是れ友達よ此の世に或る五大洲あり  
 一大陸あり種々の心あり我日本を何れの大  
 陸の内より英吉利の何れと云ふ沙に都之也僕  
 歎ども所惟の傳後世忍ぶる實に文也所  
 化は秋たり初学の年よ満ざると早已に此  
 間あり教えざんばもさういふ一時の奮發よ

萬國百物語



懶惰と忘と彼の書あのおぼろげに珍らし  
多かるるものありて二ヶ條に拾ひ出さるるは  
お伽話と做しよ早晩お大なる今心我  
君一六卷七巻のありてありて於て  
童謡人も看せし春の朝は赤布を換  
んとの念起り多かるる拙なるもの憚りあり  
梓よ上は事といふを元より不学無見  
の撰と新しきもの古きもの且通りの名を

用とんとする故英語佛語漢語も雑とす  
地理書と稱する程少しとす凡物産記の  
云ひ難きを以て童謡子と稱せしを傳とす  
此書の銘に負一萬國百物語と題する  
小南守

瓜生政和速









○一の巻目錄

- 歐羅巴全 きうろわぜん ちゆうのえち 一丁
- 土耳其國 とことうき のえち 四丁
- 并 屬 ぞう 必 ひつ のえち 九丁
- 魯西亞國 ろしや のえち 九丁
- 并 屬 ぞう 必 ひつ のえち 十八丁
- 普魯士國 ふるしや のえち 十八丁
- 并 屬 ぞう 必 ひつ のえち 十八丁

○二の巻目錄

- 奧地利國 あつりや のえち 一丁
- 并 屬 ぞう 必 ひつ のえち 一丁
- 西班牙國 いすぱひや のえち 八丁
- 葡萄牙國 かりとがら のえち 十七丁
- 赫勿萋亞國 へふせいあ シユリセの 二十丁
- 滝 たき のえち 二十丁
- 伊太里國 いとりや のえち 廿一丁
- 并 列 ちゆう 必 ひつ のえち 廿一丁

○通計十四條



凡例

- 一 里数ハ我三十六丁の二里小垂一尺もきく我曲尺小垂
- 一 量目もらると小准ト用也
- 一 弗も垂るべきりのへ當世のお場ふ合せ何十何處と精
- トク記ハ
- 一 何年おと在るハ明治五年より遡り筆人ト云ふハ
- 一 千百年年と在るハ西洋の紀元よりあり
- 一 書中の繪圖ハ只主中とするハの位置を記せしむ
- 一 あり具ありねど是ハ童蒙ハ安んず欲しむ

萬國百物語卷之一

東京

瓜生政和編集

○歐羅巴の部

歐羅巴の往古の希臘國の帝都の名ハ一々繁昌  
 みるる方々市町ありけき土地の人其花やうる  
 と慕ひ遂ふ全島の總名と為せりとぞけ國五大島  
 の中ふてハ最も小狭くして世叟の陸地と十四小



割て其一分小居り魯西亞の領分こそが半小過ぐ  
 然まども人口二億六千五百四十一万餘ふして世界  
 の人口と四ツ小割り其一分と有ツとる國の疆域  
 北の氷の海小至り東の亞細亞小烏拉爾山北  
 高海黒海等と以て界とる一南の地中海亞非  
 利加小隣り西の亞太臘海小限る國と分て北中南  
 の三ツとる一時候の都て寒く惟南の方の海小  
 向ひたる地の暄暖るり人の風俗の國所小因りて

種々まども大概一人の男一人の女と守り身柄を  
 人小ても妾とを囲ひ女まどもとぬるとる一言辞へ三  
 種小別と一小羅甸語羅甸の今の伊太里あり佛  
 蒙西西班牙葡萄牙まども是小原く二小獨逸語  
 英吉利和蘭噠國瑞典及び日耳曼列國之小原  
 三小斯刺勿泥亞語翁加里亞魯西亞土耳其之小  
 原く通用の貨幣へ金銀銅と用也  
 紙の札とも用也まども大札斗りふして小札へま



遠方えんわうの狢近ちかに畔りふも金高たか多おほきしといふ  
 持運もちうんび取扱とりあつひしうふ不自由ふじゆうある故ゆゑ千兩万兩せんりやうまんりやうの大おほ金きん  
 おこもも扎さるまが衣服いふくの隠しへも入まらるまの便あるべんと  
 以もつて是ともふ金銀ぎん不自由ふじゆうあて持もつる物ものふ有あら  
 ざまが小札せうさいあく大札たいさをりありと云ふ  
 人ひとの全国ぜんこくともふ身の丈大おほく髪の唐黍とうもろこしの毛不ふ似に  
 て眼の瞳紺こん色いろあり性質せいしつ伶れい俐れいく天文てんぶん地ち理りも術  
 藝げいふ達す常ふ大海たいかい小せう船せんと浮べて外がい国こくと交易えき

通商つうしやうするとと好む食糧じきやうの麦ふて製せい衣いる蒸餅じやうべいといふ  
 饅頭まんとうの皮の乾きし振ちる物と牛豕しやうしの類ひの獸じゆう肉にくと用  
 衣い服ふくの筒袖つとむそでう白しろの肌着き股か引ひぬて皮かわの踏と履家かの石  
 或あるひの煉れん化か石せきふて疊たぐひと四五ご階かいより六七しち階かいの高さふ至いたる  
 当時たうじ全ぜん刃じんと十六じふふ分け其中そのふ帝国ていこくと称するもの  
 四よツあり土と耳に其その国こく魯ろ西せい亞あ国こく澳あう地ち利り国こく普ふ魯ろ士し国こく是これ  
 あり仏蒙ぼん西せい国こくも去年こぞまごの帝国ていこくありリガ三世さんめ  
 の帝拿な破ぱ崙ろんとりふ人普ふ魯ろ士し国こくと戦争せんそうふあよび



えろつを別系分る



萬國百物語

こまじりやあどやらるる  
 紅海とペルシア湾のふち

五十三



負て降参る一けまが共和政事の国とありたり  
其外王国侯国共和政事の国々あり

○土耳其其國の在る一

○土耳其其の歐羅巴及中の南よりの地より歴山  
王と言ふ人の生まじり所あり歴山王の智勇を双  
の大將をまが歐羅巴及亞非利加及び切從之  
亞細亞及び伐平らげて一天世の国王ふ成んと  
思ひ先印度を攻らんといけりが印度へ渡り大沙漠と

大いなる沙漠の六百里も六百里もある所と城すあり故に  
歴山王軍とい原中へ向るる熱国の沙地の暑さと  
水の乏らふ苦し兵卒多く死しけまが敵国まで  
至らずして軍勢と本国へ引返り王のその後酒は  
當りて死せりと言ふ歴山王の世史ふ名高き豪傑  
あり國の首都と公斯瑞低諾波爾といふ當所は  
切支丹宗門の本山羅馬國の帝の東の都とせし  
舊跡ふて領分は亞細亞及び亞非利加及び跨り



威勢いせい廣大くわうだうるる故ゆゑ不あ歐羅巴えうろつぱ及あ不あ在ありても他の諸あ
  
 弱じやくの會盟けいめい不あ列あるらず超こ然ぜんとして獨立いりやくあり法教ほふくの
   
 嗎哈默多まがもつとといふ人の宗門しゆもん回教かいきやうと用もちひて以もつ
  
 年号ねんごうも他の国あと同おなじならず嗎哈默多まがもつとの亞非利あひり
  
 加之かの中ちゆう亞拉比亞国あいらびあこくる默加めつかといふ地ち不あく生うまを我わが
   
 宗門しゆもんと定さだむんとせしより耶蘇宗やそしゆうの者もの不あ憎にくまれ終つひふ
   
 けの麥地むぎぢ拿とりて云いふ所ところへ通とほりて來きり始はじめて回教かいきやうの盛さかん
   
 ありふ至いたる因よりて嗎哈默多まがもつとの麥地むぎぢ拿とりて來きり



年ねんと年号ねんごうの紀元きげんと定さだむ嗎ま
  
 哈默多まがもつとの麥地むぎぢ拿とりて來きり
   
 日本にっぽんの明治五年めいしごねんより十二百にふひゃく
  
 二十八年にじゅうはちねんなどおの事ことあり
   
 土耳其とるき其そのの人ひとの勇氣ゆうき盛さかんゆ
   
 死しを懼おそむ故ゆゑ不あ伊太いだい
  
 里りの国こくの人ひと是こゝと諺ことわざへて他の
   
 歐羅巴えうろつぱの人ひと五ご人にんありても



土耳其の一人の敵に難しと言ひしが英吉利  
 西魯西亞とのみく鉄炮の術大いに併けしむ  
 夫より戦ふ毎小土耳其人敗北し領地を失ふと  
 少なるらず因りて伊太里の人まゝに評して土耳其  
 の人の五人の他の歐羅巴人の一人の敵すべからずと  
 言り爰お於て土耳其の人憤怒小堪えず大い  
 鉄炮の調練とぬり武威古一十倍す今より二  
 十二年お小英吉利西魯西亞と共小魯西亞と戦

ひて勝とを得たり

は国の海の中小歐里普斯と言ふ所ありけ辺の海  
 の潮一日の中小七度づ満干あるあり往古の賢人  
 ろる歴山王帝の師匠亞里斯多と言ふ人其理と  
 見届んと種々小勉強ととも知とず然と強  
 て是と究めんとぬり遂小海の水の為小死しと  
 言ふ又その近き傍の海の中小哥斯と号する島  
 ありけ島の歐羅巴中の名医依ト加得といふ人の生



東國百物語

まじり地あり

當國の歐羅巴中の上国なりて寒暑程よく万の物  
皆備あり米を以て常の食糧と為す土地の人嗎  
哈黙の教えを信仰するを以て豕の肉を食ひ葡  
萄酒を飲とて嚴に禁物と為るあり  
その国の鼻祖は土耳其斯坦まじりて獨立鞏固とも  
言ふ国の阿斯蒲と呼ぶ者ふて智勇兼備の英  
雄あり一く匹夫より起り所々の戦争を討勝て終

小土耳其其の帝とあり今も猶その子孫ふて相統せり  
とぞ

○亞細亞土耳其其の往昔那多里亞と言ふあり  
西の比耳西亞を小く東海と地中海と突つて  
亞細亞及び西の外まの隅あり狭き海を隔て歐  
羅巴上土耳其と連るあり亞拉比亞を跨り亞非利  
加と地づきあがり左に沙漠の西多し右に大川の  
於府百三十ヶ所あり然れども人口と土地の廣き

東國百物語



割多ハカ一トハ只ハ鬚目有るハ士麥拿大馬士革の二  
ツの府下るハ何モ日人口十萬ハ余ハ  
方小及ハ九ケハ二万ハ少ハ月の廿六ハ布ハ  
古代ハハ勢ハ盛大多る地有リハ土耳其帝の先  
祖阿斯滿のハ攻取ラハ終ハ其領分ト有リ  
コリケ地ハ怪ハ湖水有リ是ト死海ト号ク魚  
の類一切生ずルコト一其水清浄ハ底ハ魚  
皆透徹クハ程ハ甚ハ鹵氣甚ク多ク

故ハ岸の畔ハ常ハ塩の凝リ固マクハ有リハ  
水ハ試ハ物ト投入トスルハ石金の如クハ重ク  
沈マズ又旅スル人其湖の近キ畔リト通リ  
テ水より立昇ル蒸氣ハ觸ルトハ衣服俛ルハ  
湿ト受ルハ覺え後二三日ト経トハ其衣服  
此腐ト壞ト物ハ用ハ立ズトハハ湖水  
より東ハ當リテ歐法臘得トハ名高キ大河  
先流ルハ景色ハ美ナル画工モ多ク捨ベクハ

萬國百物語



壁山帝の舊跡あり當地の時候温和ありて五穀金銀多しと以て近き四辺りの国々おいて稱して天下の樂土と為するまて温泉あり数十ヶ所噴出する能く病氣を愈はと云り

は国ハ亜細亞の方不属するものと雖しも歐羅巴土耳其と地を連続せり且その領分あるが故に爰に記す

○公羽加里亞加の美酒甚多く其品四百種餘ふ及び中トカエルと言ふ酒と最上と有す又國の首都スリスベルグ府の近傍に大いなる河有りて鯉魚の生を夥しく子と摺らるるは兩方の岸へ飛騰すと以て人は是を捕らるるとりふ

○魯西亞の在り 俄羅斯とも云ふ

○魯西亞國ハ世界一の大国にして歐羅巴及び始り



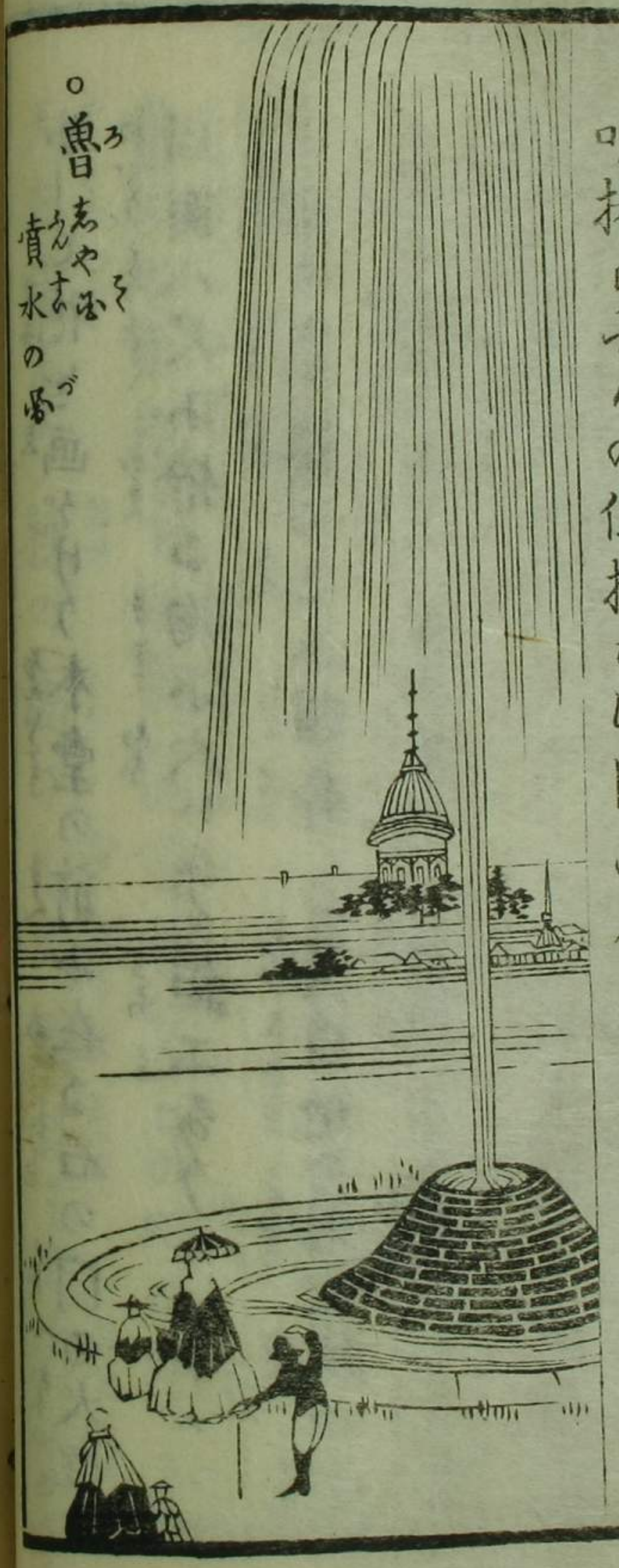
亞細亞あしあ又また小漫衍こまんげん亞米理加あみりか又また跨またる我われが日本にっぽんと云いふ領りやう  
 地ちすゞ小打雜こうちざる小至こしる氣候きこうハ總すべく寒さむくしと甚おそろ  
 ぐぐさ小至こしる水銀すいぎん凝固こうこつて流ながれど動うごくとる  
 北きたよりの地ち小至こしるハ冬ふゆの中なかハ常つよ小薄夜あかるよの如ごとく  
 小こして降積あがりつりり雪ゆきハ野山のやまと埋うめり 白銀しろぎんの海うみ  
 小似こにつりしとぞ

當國とうこくの首都しやうとと伯得爾堡べいとるあると云いふ町まちの中なか小  
 天主堂てんしやうだうあり棟むねの高たかさ十丈餘じゆじやうよ柱はしらこゝる青塗あおぬり

小こして花はなと画ゑかけり本堂ほんだうの前まへ小在ある石いしの門かどの大柱おほいしの  
 周田しゆでん八尺はつしゃく小餘あまる洵まこと小大おほいある鉅工こほくあり  
 王宮わうきゆうの高樓たうろうの上うへ小國帝こくたいと其その后妃きさきの冠えむりと收あむ帝てい  
 の冠えむりの正中しやんちゆう小大おほいある金剛こんごうの潰石つぶしと一ひとツ置おききる石いしの  
 價あんん十百万しゆばんまん金きん小過すると言いひ百年ひゃくねん以來いらい未まご小價ねと定さ  
 むるむるむとむく毎年まいねん三万金さんばんきんと其その買主かひぬしハ拂はらひて今日こんにち小  
 至しるしるしるしとぞ  
 又また國帝こくたいの行宮ぎやうきゆう小地ちの下した鑊くわくの管くだと埋うめて河かの水みづと



引<sup>ひ</sup>き<sup>これ</sup>是<sup>と</sup>吹<sup>ふ</sup>揚<sup>あ</sup>ら<sup>す</sup>る<sup>ところ</sup>處<sup>に</sup>あり<sup>る</sup>水<sup>の</sup>突<sup>つ</sup>昇<sup>の</sup>る<sup>こと</sup>と<sup>十</sup>丈<sup>餘</sup>遠<sup>く</sup>  
 く<sup>た</sup>放<sup>はな</sup>ま<sup>す</sup>と<sup>の</sup>望<sup>の</sup>望<sup>み</sup>こ<sup>の</sup>見<sup>え</sup>ま<sup>す</sup>が<sup>水</sup>晶<sup>の</sup>柱<sup>と</sup>建<sup>た</sup>て<sup>る</sup>が<sup>如</sup>く<sup>水</sup>と  
 吹<sup>ふ</sup>揚<sup>あ</sup>ら<sup>す</sup>る<sup>の</sup>仕<sup>あ</sup>掛<sup>け</sup>は<sup>は</sup>国<sup>の</sup>小<sup>及</sup>ぶ<sup>所</sup>あり



○魯<sup>ろ</sup>志<sup>し</sup>や<sup>み</sup>の<sup>泉</sup>  
 賣<sup>う</sup>水<sup>すい</sup>の<sup>泉</sup>

西南<sup>しんなん</sup>より<sup>の</sup>地<sup>ち</sup>方<sup>か</sup>小<sup>ま</sup>馬<sup>ば</sup>林<sup>りん</sup>博<sup>はく</sup>爾<sup>に</sup>と<sup>り</sup>の<sup>地</sup>あり<sup>け</sup>外<sup>の</sup>河<sup>が</sup>小<sup>な</sup>  
 大<sup>おほ</sup>い<sup>る</sup>鉄<sup>てつ</sup>の<sup>橋</sup>と<sup>渡</sup>せ<sup>り</sup>長<sup>なが</sup>さ<sup>十</sup>五<sup>町</sup>餘<sup>高</sup>さ<sup>四</sup>丈<sup>に</sup>  
 小<sup>す</sup>過<sup>す</sup>ぐ<sup>け</sup>鉄<sup>てつ</sup>の<sup>橋</sup>と<sup>造</sup>る<sup>の</sup>失<sup>しつ</sup>費<sup>へい</sup>百<sup>ひゃく</sup>五<sup>まん</sup>千<sup>せん</sup>万<sup>まん</sup>兩<sup>りょう</sup>あり  
 一<sup>い</sup>と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>ふ

は<sup>は</sup>国<sup>の</sup>へ<sup>の</sup>噴<sup>ふん</sup>国<sup>の</sup>の<sup>コ</sup>ロ<sup>ク</sup>と<sup>り</sup>の<sup>人</sup>渡<sup>り</sup>来<sup>き</sup>り<sup>て</sup>閑<sup>ひら</sup>ま<sup>す</sup>  
 始<sup>は</sup>め<sup>に</sup>領<sup>りやう</sup>分<sup>ぶん</sup>追<sup>お</sup>々<sup>々</sup>廣<sup>ひろ</sup>がり<sup>と</sup>ま<sup>す</sup>と<sup>は</sup>野<sup>の</sup>壺<sup>ひつ</sup>国<sup>の</sup>の<sup>風</sup>あり  
 ろ<sup>ろ</sup>と<sup>は</sup>伯<sup>はく</sup>德<sup>とく</sup>琛<sup>ちん</sup>と<sup>り</sup>の<sup>智</sup>恵<sup>あ</sup>る<sup>大</sup>將<sup>の</sup>の<sup>代</sup>み<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
 是<sup>こ</sup>と<sup>を</sup>忖<sup>しん</sup>と<sup>り</sup>自<sup>みづか</sup>ら<sup>に</sup>兵<sup>へい</sup>卒<sup>そ</sup>小<sup>ま</sup>雜<sup>ま</sup>り<sup>て</sup>調<sup>てう</sup>練<sup>れん</sup>を<sup>す</sup>



和蘭へ往て船大工と成り英吉利へ渡りて時斗の  
 職と覚え塙地利とりふ国へ越て陸の軍の整晷  
 と文藝武術の言も更お諸職人の手業も皆  
 残らず學之て後国の仕法と尽く取替へ只一代  
 ありて文明昇化の世とありて魚魯西亞の王国  
 ありて伯徳琛小至りて始めて帝の尊号と称  
 たり伯徳琛帝の如き人の魯西亞昇化以来前後  
 を類の大將ありとぞ

け国小常の物と異ありて鑛鉄と出す一色黒  
 く一色赤くして黄と含むその性質何とも堅  
 く緻細うある故大炮と造る小良と言ふ  
 彼得爾堡府より八里ほど隔て克龍斯大的と  
 言ふところの海の中小臺場三坐あり鼎の足  
 の如く小峙ち立築造堅固ありて虎跳り龍  
 蟠るの勢力ひと有ツ今より二十二年おて土耳  
 其英吉利仏蘭西の三国と敵とほ我ひお及びる



時英仏土の兵船爰小至りけ三ヶ所の基壇の  
 為小打痿めらると終小進之攻ると能へざりとて  
 ○南峩羅斯の不可薩と云とろありけ地の人能馬  
 小乗と以て国王是と騎兵隊とる一戦争小出  
 ると貢と為さりむ可薩の人戰場小ての四辺と  
 巡邏り敵陣の斥候と為すあり戦ひ小のそむ  
 と深く重地小攻入つて殺戮一險危と冒りて  
 懼る色る一斥候する時敵追来とば馬と乗せ

走る小早く一て及ぶ者る一  
 當国の舊首都莫斯科府小大いある林凡鐘あり  
 寛さ六十七忽一月一尺一重サ二万二千頃一ん二百一值十五  
 万兩解かりりとまん  
 ま大砲一挺あり穴の内へ人坐りて狹寛うあり  
 然とども古一へより是と放ちりときとあり  
 魯西亞領の中小僧徒の数二十七万四千人ありて  
 其うち二十五万四千人の希臘教の宗門あり又



以惣そつとの僧徒そうとの女房子にまうら子供こどもとの数かずと合あすは  
 五十四万人あま餘あまふ及およぶ總すべて僧徒そうとの種類しゆるい不ぞく属ぞくすもの  
 諸あまの運上うんじやうと脱だつると罪つみと犯あすも刑罪けいざい其その身体うらら不  
 及およぶとありといふ

魯西亞ろしや韃靼たつたん一名止百里亞国しひりやこくの亞細亞あしや島しまの中  
 ありといふとも魯西亞ろしやと地ち続つづきわたりて且かつ其国  
 の領分りやうぶんあるまじく爰こゝ不し記しす止百里亞しひりやの中

○以爾格都加領いりかくかの地ち不し地生羊ちせいひつじやうといふ物生ものせいず体たい

至いたつて少ちく春はるふるると長ながき莖くき伸のびとち毛茸けしき出で  
 来きる形状けいじやう恰ちやうも羚羊ひつどのこ不し似にたりけ毛茸けしきその周圉めぐりの  
 草くさ卉さいと蠶くわ食ふ人ひと試しし是これと切きり或あるひい刺さるど  
 ぬまじ赤あか色の液じやく流ながると出でる血ちの如ごとく採とりて食たべ  
 すまじ味あじひ魚蝦いしや不し似にて美味うまい土地とちの人ひととて  
 不しラメツと名なづ西洋せいやう襪わ記しといふ布ぬの中ちゆうへ地生ちせい  
 羊ひつどの工こうと書載しよざいするふ布ぬ草網目くさあみの事ことと引ひく  
 地生羊ちせいひつどの西域せいよく不し出でつ羊ひつどの脚あしと扱あて土中どちゆう不し種しゆ

萬國百物語一



既そぐ水みづを以もつて為なるらば雷かみなりの声こゑ轟とどろくを穿くて生うずる長ながずる小こ及およんで脬へそと断きりて行ゆくに草くさと藪くさふ秋あき小こ至いたつて食たべ可べし脬へその内うちの後のち小こ種こゝろあり瓏ろう種しゅ羊やうと名なくと

世俗せぞく小雷こらいの轟とどろくと脬へそと出いせば拔採ぬきとらると言いふ諺ことわざありいは地生あちせ羊ひつの雷かみなりの声こゑを穿くて生うずるようり始はまるる物ものう

同おなじ領地りやうちのりち小大あいるる湖水こすいあり白哈兒はくわいと云いひ

貝湖かいことも号なづく廣ひろさ二十三里にじゅうさんり餘い袤ま百十里ひゃくじゅうり餘いなり大清一統志たいせいいつしゅうしの中ちゆう峩羅斯いらくしの條じょうは湖水こすいの古ふる文ぶんと記しし漢書かんしよを引ひき蘇武そぶが北海へいかいの上うへ小羝せうていと牧まきとあるいはるららいは処ところならんと言いひは湖水こすいの魚うい夥あまぎく生うまるト又海豹うみひょうとも産うむ一年いちねんのうち小獲こくるところ二千頭ふたせんとう餘い小至こいたつりは地ちの北きたの方かたの海辺うみへんと沙漠さぼく厄やく鄧とんとり小土地こちゆうちの人ひと短小たんせうくして身みの長なが四尺しやく小足せうそくらず皆みな馴鹿なれしかと食糧しょくりやうとるす冬ふゆの月つき小こるると



日ひの光ひかりり稀うすく薄ひろく終ひろく日ひの暮くれぐぐの如ごと斯ごと  
 の如ごとくもさば寒えん気きももさるりぐぐ水みづ銀ぎん酒しゅの  
 類るいひとりの凝こ固こりて勃うどらず然さととも復また  
 いぐさば四十日よちじつあゝのあひ間まぐぐ炎えん熱ねつ燬やぐぐ  
 と云いふ

○堪察加かんさかとりの所ところハ魯西亜ろしあ領りやうの北東きたとうの外ほかとありて寒さむ  
 さ強つよけさば草木くさくさも雪ゆきがず人ひともろろて小こさ  
 夫それ由ゆ多いぬ犬いぬを用もちひて馬うまの代しろりとり鹿かと捕とらえて

牛うしの如ごとく使つかふ魚うしと採と  
 り食あとる山やまの林ふし鹿か丘かみ  
 の下したるどく横よこ穴あなと堀ほり  
 て住すま居ゐとるす魚うし西せい  
 亜あの人ひと罪つみありて島しま流りゅう  
 一ひとふする時ときハる堪察かんさか  
 加かへ送おくるあり  
 加か摸も沙さ都と加かの岬さきより



犬雪車いぬゆきぐるま  
 とひく



南西ふ當りて数多の島あり我が蝦夷の  
千島ふ連り接するは辺の者の多く唇  
の傍りふ照とぬし女の耳の朶へ環と下る  
と飾りとぬし

加摸沙都加の蝦夷の千島と對ひあひの  
地ふして人家まとい少くうと百年ほど  
まへに魯西亞の帝翁加里亞国のベンヨウス  
キと云ふ人を捕えては地ふ流せしより人

口大しふ蕃息とりとぞ

○新增白臘國の北極星ふ近きところありてニツ  
の島あり共ふ魯西亞ふ從ふ復とりの雪  
深きと一丈餘冬ふ至ると百日ほどの間どの  
暗の夜の如くふして惟折々北の方ふ當り  
て光りの氣はゆるゆるのころり輿地学を勉むる  
者復の月を待て僅うふは地ふ至るとり  
ども皆雪の山水の野ふして土地をみる



能はずその北の海岸一ツの高山あり近  
世獨逸国の人け山銀の鑛有らんを計  
り事不馴る坑丁数百人とをりて掘らせ  
る地一二年の中ふて七分夜ふて三分昼  
ありと云ふ

○普魯士國のたふ

○普魯士の日耳曼聯合の中ふての大いなる国

あり日耳曼聯合とりふは四辺に在る大小二十五  
の国々と聯ね合せ其総名を日耳曼と呼ぶあり  
国の首府を伯君とりふ元の領分少きうと  
百七十年におお王国とあり二代目の王  
の啡哩特と云ふ人ありり又大そうふ仕出  
當時の王お至りまきり勢ひよく五六年  
おより方々一軍を向け日耳曼聯合のふく  
と九分通り平らげ去年仏蘭西とも戦争ふ







當時普魯士の斯廣大に成りて一旗下の大将  
 小エスマルクと云ふ人ありて人の歐羅巴及びの中にて  
 二十年以來不をさ智者ありて他の小も評判  
 と清らるるどあり然る小其エスマルクと重く採用  
 故戦争も勝小の治りも宜とあり  
 伯英の首都も往昔の日耳曼中の悪き地ありて  
 今の如く小いありざり始め和葉の海大の小荒と突波  
 陸へ押揚げ住居あり難き者多く出来けり其

難と避て當所小来り四本柱の家を造り爰小住む  
 者数千人の仮家とコルンと称ふ今伯英の府内  
 小在るコルンと云ふところの則是あり  
 代国の学問の世話行届くと世鬼身一ふりて悪  
 事とあり一率へ入ると者小ても率の中小師匠  
 と置書物と渡して是と教え読みむるとあり  
 當府の大砲の名所あり高き品小て一挺小付  
 價五万両と過るものあり





府内の花園も花も葉も  
 共小五色ある樹二株あり  
 詠の美しきみ比あるふり  
 ろ一其名と知らず  
 け国小怪しむ可き湖水あ  
 り周田頗ふる大さ其水  
 三年の間ハ満湛えて夥ど  
 しく魚蝦と生ト次の三年

の間の水乾涸て耕作とある小軍とぞ  
 ○維士奈里弱の中謬塞河と来因河と落合てツ  
 小成て流る四辺の野も山も人の庭も葡萄もさら  
 ざる所あり是を作ると夥ど白ら葡萄もまこ  
 在り故小け葡萄を以て種々の名酒を作り出  
 是と来因酒と号けて世畧中へ積送ると夥ど  
 け国の都府哥羅尼とろ所小大いある耶蘇宗  
 の寺あり六百年おふ是を建てかひ、年を積で



造作ぞうさくとぬぬとも未いまどお全ぜんく出来でき上あらず然しかれども  
 も其その普ふ請しんの祭まつり構ま築き建たの奇き妙めうと極きめ一いつ歐おう羅ら  
 巴わの人ひとの称なづして世せ界かいの才さい一いつとぬるとぞ  
 當とう町まちふて香かう水すいと製せい年ねん々々数すう万まんの瓶びんと賣う出し  
 是これを哥あ羅で尼こ水らんと号なづけ冷あく世せ上じやうへ行ゆ渡わたりたり又また  
 亞あ金けんとらふ都と府ふあり往むか昔この英えい傑けつ仏ぶつ榮えい西せいの帝てい  
 查ちや爾に曼まん又またとらふ人ひと爰こゝに住あ居き後のちまゝこけ地ちに終おり  
 り々々々々帝ていの墓むあり十じゆ年ねんをどぶのころの

争あ論ろんより誠まことの帝ていの墓むありや否いなやと見み届とんたりて  
 歐おう羅ら巴わ中ちゆうの国こく々々の使し節せつも究きゆう理りの学がく者しやとらふ爰こゝ  
 小あつ集まり會かい其その墓む所しよを掘あかろる小せう巖がん重じゆう美み麗れいある  
 棺いっ中ちゆうに帝ていの遺い骸がい依い然ぜんとして形かた体たいと崩くづさず  
 元もとの終しゆうふて有ありたりふ  
 同どう国こく維い土ど巴わ敦とんとらふ地ちに名な高たかき湯とう治ち場ばあり温ぬる  
 泉せん四十しじゆ箇こ所しよより湧わ出で旅りゆう店てんの構まえ園えんの設せけ清きよく  
 して美うらさそと尽つく夏なつも至いたると遠あ近ぢの捲く人びん



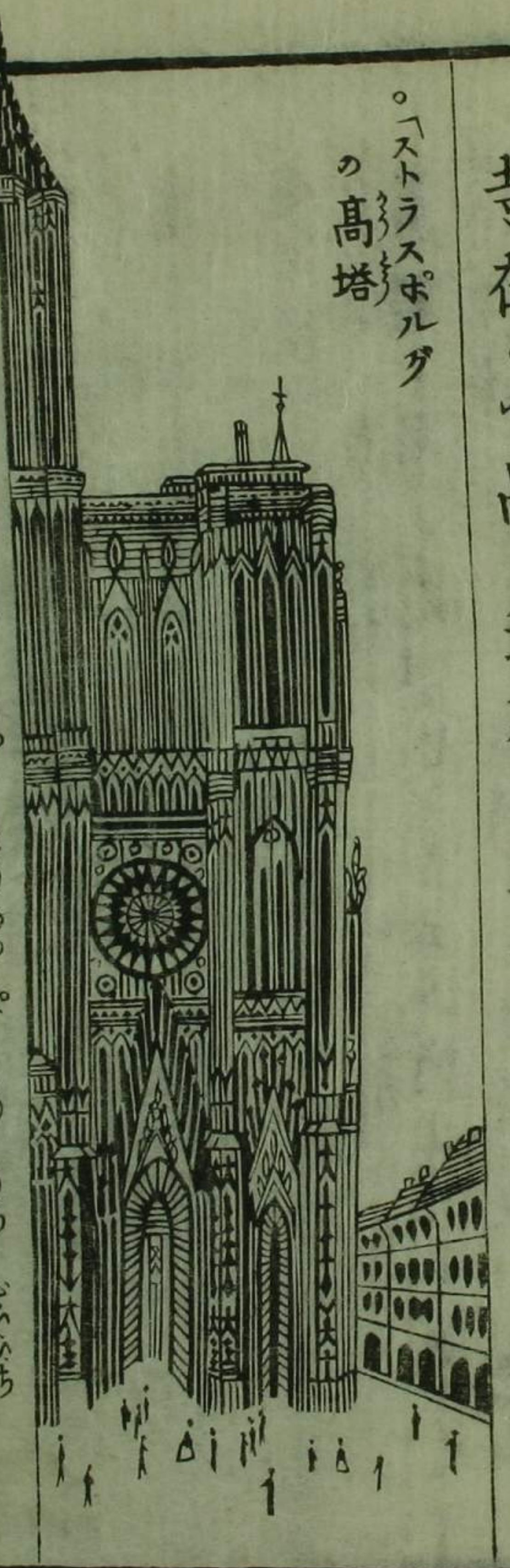
涼一さと探りて集ひ来ると我が箱根の湯場伊豆の熱海もと同一

○仏蒙佛国おふと同一名の都府ありは処に歐羅巴羽の中ふて第一番の豪富ロツチルス氏の住居あり當地小商業を起してよろ今では各国の大都會ふの必ず出店を設くるとぞ

○亞撒西国は元日耳曼の附属ありと仏蒙西ふ取らんと去年もく仏蒙西との戦争ふ勝て取戻

しる地あり斯達拉斯堡といふ都府ふ大いあり寺在りて高き塔建り直立ふりて頂上まで七十七

○ノストラスボルダの高塔



間四尺ありは塔を以て歐羅巴羽の中のもの一とみす  
○薩索尼国の易北河の四辺の風景よく繪ふも書得



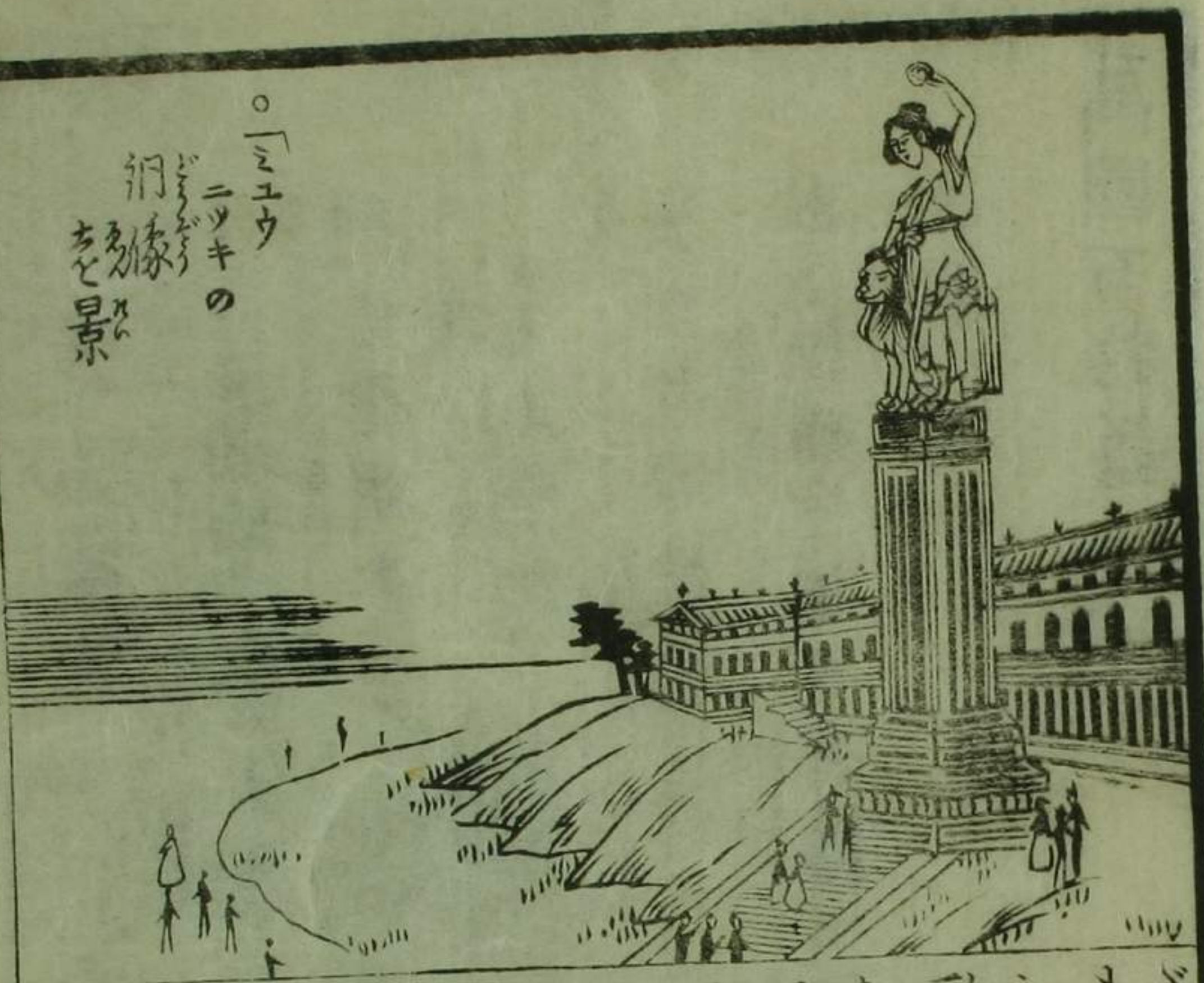
づき程のところありて其最奇妙ある丸柱と  
 建つるが如き大石我然として路の両脇に連り  
 聳ゆ其高さ十丈余又の溪河の流の上へ巨石  
 重り合て両の岸より段々突出し中ごろ小  
 至り互ひ小接りて天然の橋とぬせるありて  
 巖橋と号く又コラセンと云ふ所より山をへ入りて  
 石と積上げて造りたる飛橋ありけ橋の上より眺望れば  
 遠近の風景千態万状極りなるところあり

同国易北河の流の下小マイゼンといふ所あり陶器  
 と作り出すと夥しけ地を以て歐羅巴中の瀬戸  
 物と焼の元祖とぬす  
 又来責といふ城下の名高き大学校有て以て書肆  
 至つて多く世叟中ふて書物と高ふの澤ある英吉  
 利の倫敦仏蘭西の巴黎斯といふ来責の町とぬす  
 とぞけ四辺の高名の故戦場ありて今より五十九  
 年お仏蘭西帝拿破崙といふ人三十万の兵と



將ひ来り 埃地利国 普魯士国と 始め日耳曼列国  
 の大軍と 三日三夜の戦ひ 小拿破崙敗して 後終  
 小捕虜とあり け時 双方の討死 三方を人小  
 及ぶ 其大軍あると 知るべし

○巴威里国の 靡尼克とあり 府下小銅を以て 造り  
 廣大なる 女神の像あり 高さ十六間 腹の中 小階  
 子ありて 段々 小是を昇とて 顔の中へ 至る 両方の  
 眼の玉の 穴より 遠近と 眺望あり 當時 世界中



牙一の銅像とある 巴丁国へ  
 歐羅巴中央の高地ありて 諸  
 方の大川の 皆その所と以て 水  
 源と為す 故に 諺に 一軒の  
 家の屋根より 零る 雫 一方の  
 流きて 来因河より 北海へ  
 注ぎ 一方の流きて 多惱川へ  
 入りて 黒海へ 達すと云ふ

ニュウ  
 ニツキの  
 銅像  
 景



水路の混雜まじり多おほく以もつておるべし

日耳曼国にちじまんこくの人ひとは天資てんし信実しんじつふりて思慮しりょ深造しんぞう物もの小せう

附つてお明めいあまびび勉強べんきやうてう倦うておるま正直しやうじき誠まこと忠ちゆうとあ愛あい

一い喜きふら然ぜんととども寡弱くわじやくとあ侮ありま高貴かうきふあ諂てんふあの過あや

失あるまとあるま能あいまずま又また人ひとの下した小立せうたてとあ嫌きらふあ因よりあてあ勇猛ゆうめう

ありあ勅敵しやくてきとあ摧くだとあ奇績きせきとあ顕あへあすあ小足せうそくとあ一書いっしょふあんあえ

く

萬國百物語一終



